令和８年度　果樹情報　第１６号

（令和８年１１月５日）

福島県農林水産部農業振興課

１　気象概況（10 月後半、果樹研究所）

平均気温は、第４半旬が 16.1℃で平年より 1.5℃高く、第５半旬が 15.4℃で平年より 1.6℃高く、第６半旬が 12.2℃で平年より 0.3℃低く経過しました。

この期間の降水量は 32.5 ㎜で平年比 53%、日照時間は 95.3 時間で平年比 108%といずれも平年並でした。

２　土壌水分（11 月２日現在、果樹研究所）

11 月１日時点の土壌水分（pF 値：果樹研究所なしほ場：草生・無かん水）は、深さ 20cm で 1.4、深さ 40cm、60cm で 2.4 となっており、深さ 40～60cm では適湿状態です（図１）。

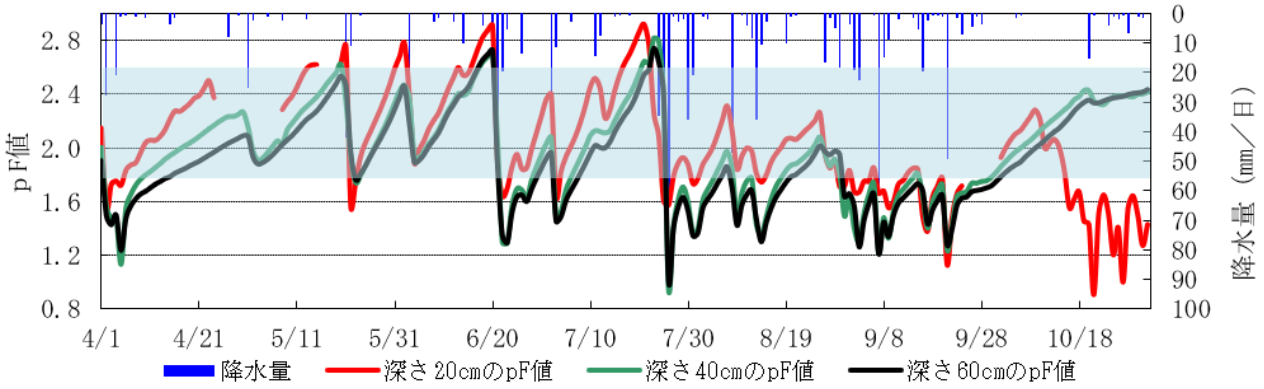


図1　土壌 pF 値の推移（果樹研究所なしほ場：草生・無かん水）
図中の網掛け部は、適湿の範囲（pF1.8-2.6）

３　発育状況（11 月２日現在、果樹研究所）

（１）りんご

ア　果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「ふじ」は縦径が 87.7 ㎜（平年比 104%）、横径が 92.1 ㎜（平年比 101%）と平年並の状況です。

満開後日数で比較すると、平年よりやや大きい状況です。

イ　収穫状況

「シナノスイート」（M9 ナガノ台）の収穫開始日は 10 月８日と平年より１日遅く、昨年より６日遅くなりました（表１）。果実の大きさは 381ｇで平年より大きく、糖度は 14.9° Brix で平年並でした。

「王林」（マルバカイドウ台）の収穫開始日は、10 月 20 日で平年より４日早く、昨年より１日早くなりました。果実の大きさは 371g で平年より大きく、糖度は 13.8° Brix で平年並でした。

表１　りんごの収穫状況

品種	収穫開始日			収穫盛期			収穫終期			果実重（g）			糖度（° Brix）		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
つ　が　る	8/24	8/26	8/22	8/28	8/30	8/25	8/31	9/ 4	8/29	326	284	265	12.1	13.0	13.6
シナノスイート	10/ 8	10/ 7	10/14	10/11	10/ 7	10/20	10/16	10/15	10/23	381	335	294	14.9	15.0	14.5
王　　林	10/20	10/24	10/21	10/25	10/27	11/ 3	10/29	10/31	11/ 7	371	316	323	13.8	14.3	13.8
ふ　　じ	未	11/14	11/18	未	11/18	11/24	未	11/26	11/27	未	357	339	未	15.0	15.1

注）平年値は、「シナノスイート」は 2012～2025 年、その他の品種は 1996～2025 年の平均値。

ウ　成熟状況

「ふじ」の満開後 192 日（10 月 28 日）における成熟調査の結果は、果肉硬度が 12.4 ポンド、デンプン指数が 4.2 で平年よりやや低く、糖度は 15.1° Brix で概ね平年並、リンゴ酸含量は 0.45 mg/100ml で平年より高くなりました（図２、３）。果皮中クロロフィル含量は平年よりかなり低く、果皮中アントシアニン含量は平年よりかなり高い状況です（図４、５）。

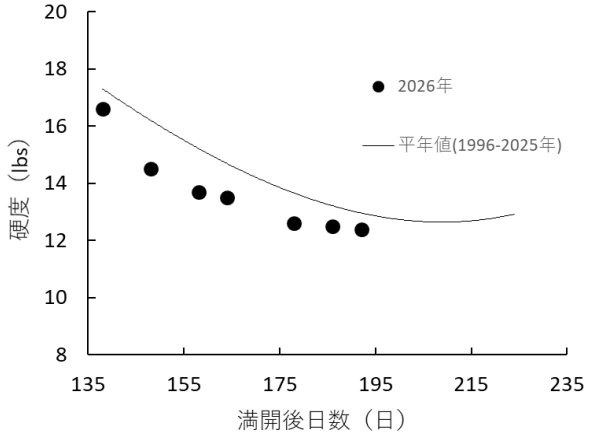


図２　「ふじ」の果肉硬度の推移

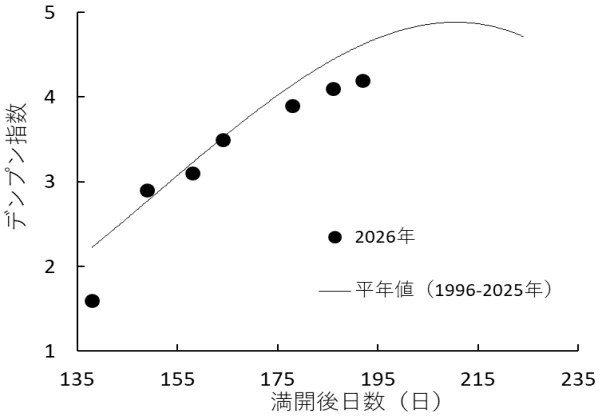


図３　「ふじ」のデンプン指数の推移

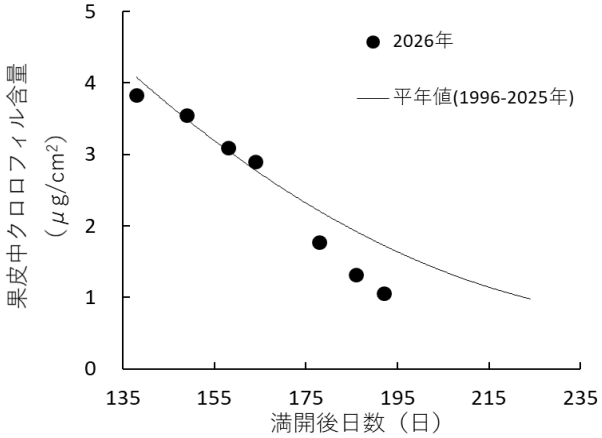


図４　「ふじ」の果皮中クロロフィル含量の推移

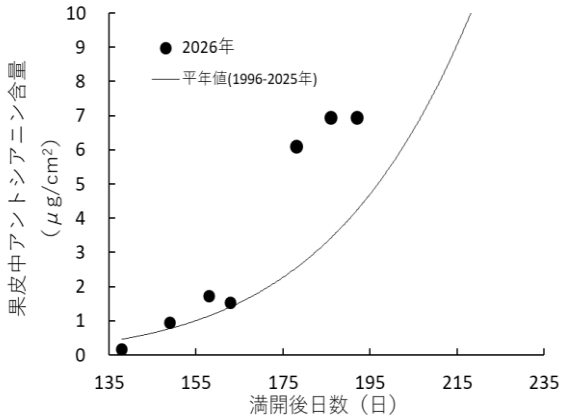


図５　「ふじ」の果皮中アントシアニン含量の推移

エ　「ふじ」の裂果発生状況

満開後 192 日（10 月 28 日）における「ふじ」／マルバ台果実の外部裂果率は０％で過去３年間と比較して少ない傾向でした。内部裂果発生率は 6.7%と過去３年間と比較して少ない傾向でした（表２）。

表２　りんご「ふじ」の裂果発生状況

調査樹	樹齢	外部裂果率（%）				内部裂果発生率（%）			
		2026	2025	2024	2023	2026	2025	2024	2023
ふじ/ﾏﾙﾊﾞ台	24	0	0	3.3	3.3	6.7	20.0	10.0	20.0

（２）ぶどう

ア　収穫状況

「シャインマスカット」の収穫開始日は 10 月８日で平年より 19 日遅くなりました。果実品質は、果房重及び１粒重は平年より大きく、糖度は平年より低く、酒石酸含量は平年並、糖酸比は平年より低くなりました（表３、４）。

表３　ブドウ「シャインマスカット」の収穫時期及び果実品質（１）

収穫開始日（月/日）			収穫盛期（月/日）			収穫終期（月/日）			果房重（g）			１粒重（g）		
本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
10/ 8	9/19	9/16	10/18	9/27	9/17	10/22	10/6	9/18	648.7	526.3	556.0	14.4	12.0	12.4

注）平年は 2009～2025 年の平均値。

表４　ブドウ「シャインマスカット」の果実品質（２）

果皮色（ｶﾗｰﾁｬｰﾄ値）			糖度（° Brix）			酒石酸（g/100ml）			糖酸比		
本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
2.3	2.9	2.9	16.3	17.9	16.8	0.27	0.29	0.37	59.4	63.1	45.7

注）平年は 2009～2025 年の平均値。

４　栽培上の留意点

（１）りんご

ア　「ふじ」の収穫

収穫に当たっては、蜜入りの状態に加えて、果実の着色、地色及び食味等により総合的に判断しましょう。

５　病害虫防除上の留意点

（１）病害

ア　ナシ黒星病

秋期防除は、翌年の伝染源となるりん片への感染予防に重要です。重要な防除時期は、りん片生組織の露出（図６）が多くなる頃（果樹研究所では 10 月上旬～11 月上旬）となります（図７）（参考：令和４年度普及に移しうる成果（https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/566356.pdf））。薬剤散布は、オーソサイド水和剤 80 を 600 倍で使用し、２週間間隔で２～３回散布（キャプタンの総使用回数に注意）し、**最終散布は落葉率 80%頃**を目安に実施します。また、**薬剤散布は降雨前の実施**を心がけ、薬液が棚上まで十分量かかるよう丁寧に行いましょう。

なお、10 月 30 日時点の果樹研究所「幸水」予備枝におけるりん片生組織の露出芽率は 27.8%で、10 月 21 日時点（25.9%）からわずかに増加しています。今後さらに芽の露出が増加するものと見込まれるため、気象情報に留意して適期に薬剤散布を実施しましょう。

薬剤散布前には徒長枝の整理等の新梢管理を行い、薬剤の散布むらをなくしましょう。２回目以降の散布では、薬剤のかかり具合を確認し、新梢管理を見直しましょう。

また、**園内外の秋型病斑が認められる罹病葉を含む落葉は、翌年の伝染源となるため、適切に処理しましょう。**処理方法は、丁寧に集めて土中に埋めるなど適切に処分するか、乗用草刈機またはフレールモアによる粉砕処理（図８）により、落葉が 500 円玉程度の大きさになるまで丁寧に粉砕しましょう（図９）。



図６　露出した芽りん片生組織（枠内）

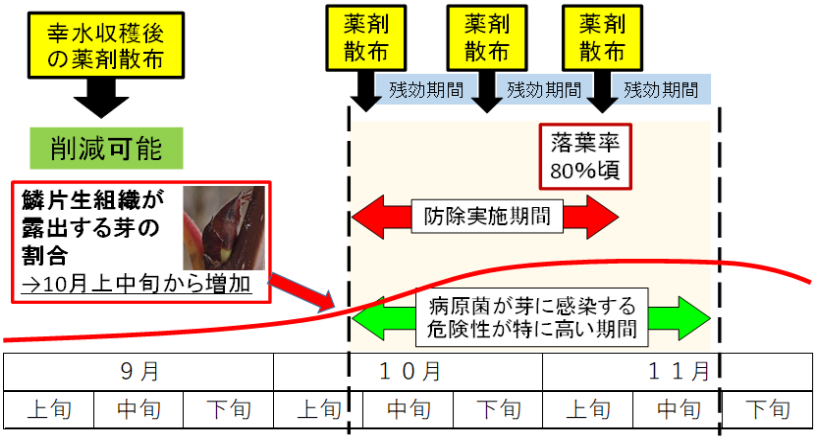


図７　なし及び病原菌の生態に基づく秋期防除の考え方



図８　粉砕処理の状況
（写真：農業総合センター果樹研究所）



図９　粉砕処理の目安
（写真：農業総合センター果樹研究所）

～ 来季用の貯蔵花粉の備えは充分ですか？ ～

国は、中国において火傷病(かしょうびょう)が発生したことを受け、令和5年8月30日に中国からの火傷病菌の宿主となる植物（花粉等）の日本への輸入を停止しました。これにより、**中国産のなし及びりんご花粉の供給が停止**されるとともに**使用ができません**。

●貯蔵花粉が不足する場合には、**自家採取等による花粉の確保**に努めてください。

●結実安定に向けた**受粉樹の導入**を検討しましょう。

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。
URL：https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課　農業革新担当　TEL 024(521)7344
（以下のＵＲＬより他の農業技術情報等をご覧いただけます。）
URL：https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/